

②B—60 衣料害虫の生態及び防除に関する研究  
第4報 イガ幼虫の食害習性について

奈良女子大 辻井 康子

1. イガの幼虫を毛織物の防虫試験用昆虫として用いる場合、食害量の変異が大きく、再現性が悪いという理由で、他の羊毛害虫を用いていることが多い。しかしイガは研究室の最適条件で飼育すれば、1年に5～7世代得られ生理的条件の揃った幼虫を得ることができる。

そこで今回は防虫性検定を行なう試験虫として、イガの幼虫の食害習性について基礎的事項を究明するために幼虫の成長過程に伴なう食害量の変化、温度湿度、棲息密度等、環境条件の差異による食害性について実験を行なった。

2. (1) 幼虫の成長過程にともなう食害量の変化

30°C±1°, 75% RH で飼育中の幼虫について孵化後10～50日まで5日目ごとに1週間の食害試験を行ない各時期の食害量を測定した。

(2) 温湿度が食害量に及ぼす影響

孵化後25日目の幼虫を用いて各種温湿度段階で2週間の食害量を測定した。

3. イガの幼虫は成長するに従ってケースと体重の割合が変化し成長するにしたがって体重の増加率が大きくなる。成長するにしたがって食害量は増加するが、孵化後30日目からの1週間が最大で、その後はやや減少する傾向がみられた。低温低湿の場合、食害量が減少する。